**テンプレートファイル利用について (14pt)**

**Use of a Template File (Times系14pt)**

顔写真（依頼原稿のみ：詳細は8章，顔写真と氏名は右寄せ）

原動 太郎\*1 原動 二郎\*2 原動 三郎\*3 原動 四郎\*4 原動 五郎\*5 原動 六郎\*6

(↑13pt) (↓9pt)

GENDOU Taro GENDOU Jiro GENDOU Saburo GENDOU Shiro GENDOU Goro GENDOU Rokuro

* 技術論文の投稿においては，技術論文投稿要領（抜粋）も併せて，お読みください。

【技術論文の場合のみこの部分に150語以内の英文アブストラクトが入ります。 (Times系 9pt)】

キーワード：ガスタービン，ジェットエンジン，原動機，コンバインドサイクル，効率 (9pt)

Key Words: Gas Turbine, Jet Engine, Prime Mover, Combined Cycle, Efficiency (Times系 9pt)

**1. 緒言** (9pt)

　このテンプレートファイルを用いることにより，日本ガスタービン学会原稿執筆要領に従った体裁の原稿を作成し投稿することができる。ただし，組版時に多少のレイアウト変更は生じる可能性がある。

**2. 原稿の様式**

**2.1 文字数** (9pt)

本文の文字数は，1ページ当たり，25文字×50行×2段組で2500文字とする。

**2.2 原稿の構成**

　原稿は次の構成に従って記述する。

　　　　i) 表題，著者名

　　　　ii) 英文アブストラクト（技術論文の場合）

　　　　iii) キーワード

　　　　iv) 本文（緒言，主部，結言）

　　　　v) 謝辞（必要な場合）

　　　　vi) 参考文献リスト

**2.3 英文アブストラクトについて**

　技術論文（投稿）には，150語以内の英文アブストラクトを添付する。アブストラクトは，研究分野，対象，手法および主要な結論を，文献検索に便利なように，多くのキーワードを使って作文する。

**2.4 キーワードについて**

　キーワードとして本文の内容を代表する重要な用語を選定し，和文，英文で各5～10語，記す。キーワードは著者が自由に決めることができる。

**2.5 文章**

　文章は口語体とする。欧文もしくはカタカナ書きを特に必要とする部分以外は，漢字まじりのひらがな書きとし，原則として「漢字」は「当用漢字」，「仮名」は「新仮名づかい」を用いる。また，文章の区切りには全角の読点「，」（コンマ）と句点「。」（マル）を用いる。

**2.6 見出し番号の付け方**

　本文に章，節を設けるときは，章番号を 1. ， 2. ，節番号を 1.1 ， 1.2 のように付けて，それぞれに見出しを

付ける。見出し行はゴシック体とする。見出しにつづく本文は，改行し1文字さげて書き始める。章を改める時

原稿受付　20○○年○月○日 (8pt以下)

\*1　所属・連絡先住所記入欄 (9pt)

E-mail: taro@gtsj.or.jp (差し支えない場合)

\*2　所属・連絡先住所記入欄

E-mail: jiro@gtsj.or.jp (差し支えない場合)

は，1行あける。節以下の項は番号を 1.1.1 ， 1.1.2 とし，細項は 1) ， 2) とする。項および細項の見出しの後は改行せず，1字あけて本文を続ける。なお，謝辞と参考文献には章番号を付けない。

**2.7 記号について**

　量記号および無次元数はイタリック体で，それ以外の記号および単位記号はローマン体とする。（添え字はローマン体とする。）記号の説明の一覧を記載する場合は，緒言の次に「主な記号」と記し，その後に記号をアルファベット順でギリシャ文字が続く形で列記する。「主な記号」には見出し番号は付けない。一覧を記載しない場合は，各記号が最初に現れた時点で文中にその定義を記述すること。

**2.8 脚注の書き方**

　原稿用紙1頁の左段の下に線を入れ，原稿受付年月日（投稿時は空白），著者全員の所属機関名とその所在地を記載する。

**3. 単位系**

　単位系はSI単位系を使用する。

**4. 図，写真，表**

(1) 図，表にはFig. 1，Table 1のようにそれぞれに一連番号とキャプションを付ける。使用言語は次の表による。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 原稿種別 | | 図表番号表記形式 | キャプション | 図表中の文字 |
| 依頼  原稿  投稿  原稿 | 技術論文 | Fig.1  Table 1  など | 英語 | 英語 |
| 論説・  解説、  講義 | 英語 | 著者オリジナル：  原則英語  引用物：  オリジナルに従う |
| 上記以外 | 英語または日本語で、１つの原稿中ではいずれかに原則統一する。 | |
| 学会  原稿 | 報告、  会告等 |

写真は図として扱う。本文中の図，表の記述はFig. 1，Table 1のように番号で示す。図および表の記載例をFig.1およびTable 1にそれぞれ示す。

IGTC_fig

Fig. 1 Turbine efficiency of ceramic wheel and metal

wheel (Times系 9pt)

Table 1 Mean fracture speed and the calculated stress of

model wheels (Times系 9pt)

igtc-Tab

(2) 写真，図は冊子体ではモノクロ変換して印刷され，電子版と本学会ホームページ上の「技術論文掲載欄」では提出原稿をWeb掲載可能なサイズに圧縮して掲載される。カラー写真，図は冊子体印刷時にモノクロ変換されることを配慮して作成すること。

(3) 図表の横幅は，1コラム（幅8 cm以下）または2コラム（幅17 cm以下）」で割り付ける。図表の横に本文は割り付けない。複数の要素からなる図（例：図1(a)，(b)，(c)など）を2コラム図表にすることはできる。

(4) 図表の文字，記号については，掲載時の大きさに合わせた時に小さすぎないかどうかを検討し，判読しやすい大きさの文字を使用する。（最小1.5 mmまで）

**5. 数式**

(1) 数式中の量記号はイタリック体とし，数式記号はローマン体とする。

(2) 文中の数式は(*a*+*b*)/(*c*+*d*)のように1行に記載する。

(3) 括弧の順番は，[ { ( ) } ]とする。

(4) 本文と式および式相互の間には，1行以上の空白をあける。

(5) 式番号は，式と同じ行に右寄せして( )の中に書き，本文中で式を引用するときは，式(1)のように書く。数式の記載例を以下に示す。

 (1)

**6. 顔写真の掲載（依頼原稿の場合のみとする。ただし見聞記や定期講演会報告は除き，連載については初回のみとする。）**

　上記の原稿について，顔写真は著者が了承する場合のみ掲載する。写真の縦横比は編集時に4:3の長方形にトリミングする。背景は著者の自由とする。なお，写真の掲載範囲は襟元（男性のフォーマルな服装の場合であればネクタイのノットあたりまで）を目安とする。カラーでもモノクロでも可とするが，印刷（ウェブサイトに掲載されるpdfを含む）はモノクロとする。できるだけ電子ファイル（jpg，gif，pngなど）で提出し，その場合，分解能は特に指定しないが，鮮明かつ容量の小さいファイル（500 kB以下）が望ましい。

**謝辞（以下は必要な場合の例）**

　□□□□の○○○○氏には，本稿取りまとめに際し貴重な助言を得た。ここに期して謝意を表する。

**参考文献**

(1) 参考文献には通し番号を付け，参考箇所の右肩に小括弧を付して番号を記入する。参考文献の著者名には敬称は付けない。

(2) 参考文献は原稿の末尾にまとめる。文献は原則として次の形式に従って記載する。[[1]](#footnote-1)

[雑誌の場合]

記載順：著者名，論文の表題，雑誌名，Vol. 巻数, No. 号数 (発行年・西暦), pp. 最初のページ-最後のページ.

【例】

(1) 柴田貴範，八木学，西田秀夫，小林博美，田中征将，高反動度化と負荷分布の最適化による遠心圧縮機の段性能向上，日本ガスタービン学会誌，Vol. 38, No. 5 (2010), pp. 335-341.

(2) 藤澤信道，原昇太郎，太田有，羽根付ディフューザを有する遠心圧縮機に発生する失速と前縁渦の関係，日本機械学会論文集，Vol. 81, No. 829 (2015), DOI: 10.1299/transjsme.15-00194.

(3) Funazaki, K., Yokota, M. and Yamawaki, S., Effect of Periodic Wake Passing on Film Effectiveness of Discrete Cooling Holes around the Leading Edge of a Blunt Body, Transactions of the ASME, Journal of Turbomachinery, Vol. 119 (1997), pp. 292-301.

(4) Hamdani, A., Utamura, M., Shibata, T. and Myoren, C., Numerical Simulations on Droplet Coalescence in an L-shaped Duct for Inlet Fogging of Gas Turbine Engines, International Journal of Gas Turbine, Propulsion and Power Systems, Vol. 7, No. 1 (2015), pp. 1-9.

(5) 山本姫子，金井洸太，立花繁，佐藤哲也，弱旋回燃焼器における燃焼振動の音響モード解析，第43回日本ガスタービン学会定期講演会講演論文集，(2015), pp. 233-238.

(6) Iki, N., Kurata, O., Matsunuma, T., Inoue, T., Suzuki, M., Tsujimura, T. and Furutani, H., Micro Gas Turbine Firing Kerosene and Ammonia, Proceedings of ASME Turbo Expo 2015, GT2015-43689 (2015).

[書籍の場合]

記載順：著〔編〕者名, 書名, 版(2版以上の場合) (発行年・西暦), p. 該当ページ, 発行所.

【例】

(1) 谷田好通，長島利夫，ガスタービンエンジン，(2000), p. 93, 朝倉書店.

(2) Dixon, S. L. and Hall, C. A., Fluid Mechanics and Thermo- dynamics of Turbomachinery, Sixth Edition (2010), p. 85, ELSEVIER.

注）和文の場合の著者名はフルネームで記述する。

[Webサイトの場合]

記載順：Webサイトのタイトル等＜URL＞ (参照年月日・西暦).

【例】

(1) 公益社団法人日本ガスタービン学会誌原稿執筆要領＜http://www.gtsj.org/method/method.html＞ (参照日 2015年10月23日).

(2) Gas Turbine Society of Japan, Instruction to Authors

＜http://www.gtsj.org/english/jgpp/instruction.html＞

(accessed on 24 February, 2016).

**7. 原稿の長さについて**

　原稿の長さは学会誌編集および発行要領（抜粋）に定められている規定ページ数（依頼原稿の場合は原稿依頼行数）を越えないよう，またページの余白があまり多く残らないようにする。（原稿依頼行数には，本文，本文中の章節の見出し，参考文献のほか，図・表とそのキャプションのためのスペースを含むが，表題，著者名と所属，脚注およびキーワードは含まない。）

（2018年7月13日改定）

1. 例からわかるように、記載事項の間に半角スペースを挿入すべき箇所が多数あるが，従来から守られていないことが多いので，注意願いたい。（英文の場合，半角のコンマやピリオドの後には半角スペースが必要。）なお，Word操作上の技術的なこととして，半角スペースと全角スペースを見分けるためには，[オプション] → [表示] → [常に画面に表示する編集記号]で，「スペースを表示する」モードにすれば半角スペースは“･（小さな点）”で，全角スペースは“□”で表示される。 [↑](#footnote-ref-1)